

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	松浦 賢長
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

母子保健学者，思春期保健学者，性教育学者。

東京大学を卒業後，同大学院に進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として教員養成に10年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室に助手として勤務し，平成15年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。その後，学部改組によりヘルスプロモーション看護学系学校保健領域（養護教諭養成課程を含む）教授。また，本学の附属図書館長を平成20年度から21年度まで兼務。平成22年度～23年度には，本学の4つのセンターを有する附属研究所長を兼務。平成24年度，不登校・ひきこもりサポートセンター長。平成25年度から，教員兼務理事を務める。

母子保健学：全国学会レベルでは，日本小児保健学会が10年に一度行う幼児健康度調査（平成22年）の委員長を務めている。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子21）については，第1回中間評価時（2005年），第2回中間評価時（2009年），最終評価時（2014年）に評価研究メンバーとして九州から只一人参画し，健やか親子21（第2次）策定に係った。また，長年にわたり厚生労働科学研究（山縣然太郎班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。わが国の乳幼児健診の標準化においてもグランドデザインから関わり（山崎嘉久班），わが国で初めての全国標準問診項目の開発を担当した。県レベルにおいても，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員長を務めた。現在は，福岡県青少年問題協議会委員長，福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会副委員長，福岡市子ども子育て審議会副委員長，北九州市思春期保健連絡会会長などを拝命している。平成25年度（12月1日）には，第26回日本保健福祉学会学術集会を主催。本学を保健福祉学の拠点とするべく業績を発信中である。

思春期学：学会レベルでは，日本思春期学会の常務理事および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の会長として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子21の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の施策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発・出版した。さらに，平成20年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行した（～平成22年度）。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規模調査（2007年）、久留米市の思春期問題調査（2014年）を担当した。平成23年度（8月26日～28日）には，第30回日本思春期学会学術集会を主催した。

性教育学：学会レベルでは，いまだ学問として発展途上にあることから，性教育学を確立するべく，全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催し，わが国で初めてとなる性教育学の書籍を出版した。国レベルでは，カプラン・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない，厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また，新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し，全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ，脳科学・進化心理学の成果を利用し，性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは，福岡県の性教育関連事業の委員等を務め，小集団学習福岡方式の開発に寄与した。現在は特別支援学校の性教育に取り組む。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・松浦賢長, 笠井直美, 渡辺多恵子 (編著). (2017.3). 学校看護学. 東京: 講談社.
- ・松浦賢長, 小林康毅, 荻田香苗 (編著). (2018.3). コンパクト公衆衛生学. 東京: 朝倉書店.

3. 外部研究資金

厚労省厚生労働科学研究費補助金, 平成 29 年度成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業) 「健やか親子 21」の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究」班: 80 万円, (主任研究者: 山梨大学教授 山縣然太朗). 分担研究者.

4. 受賞

日本家族計画協会会長賞 (母子保健・健やか親子 21 全国大会にて)

5. 所属学会

日本思春期学会 (常務理事), 日本保健福祉学会 (理事), 日本看護科学学会 (社員), 日本公衆衛生学会, 日本小児保健学会 (幼児健康度調査委員長), 日本母性衛生学会, 日本健康教育学会, 日本学校保健学会, 日本民族衛生学会, 日本性感染症学会, 日本性科学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

公衆衛生学, 保健統計学, 学校保健学, 性教育学, 教育方法論, 健康教育論, 養護実習 (教育実習), 養護実習事前事後指導, 教職実践演習, 不登校ひきこもり援助論, 子供学習支援論

〈大学院〉

看護研究法, ヘルスプロモーション科学, ヘルスプロモーション看護学特別研究, 思春期ヘルスプロモーション特論/同演習

7. 社会貢献活動

- ・日本思春期学会・常務理事
- ・財団法人性の健康医学財団・幹事
- ・九州思春期研究会・会長
- ・福岡県青少年問題協議会・委員長
- ・福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会・副委員長
- ・北九州市思春期保健連絡会・会長
- ・福岡市こども子育て審議会・副委員長
- ・ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアム・取組担当者
- ・福岡県重点課題事業「土曜の風」・取組担当者
- ・福岡県重点課題事業「健康教育」・委員 (学識経験者)
- ・福岡県教育委員会がん教育推進委員会・委員長
- ・福岡県新規採用養護教諭研修実施協議会・委員
- ・田川市子ども子育て会議・会長
- ・篠栗町健康増進計画策定会議・会長
- ・田川広域定住自立圏共生ビジョン懇談会・委員長

8. 学外講義・講演

松浦賢長. (2017.10). 性に関する指導の現状と課題. 平成 29 年度 福岡県教育委員会 教職経験 5 年経過 養護教諭研修 校外研修会, 福岡市.

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校・ひきこもりサポートセンター幹事教員
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員